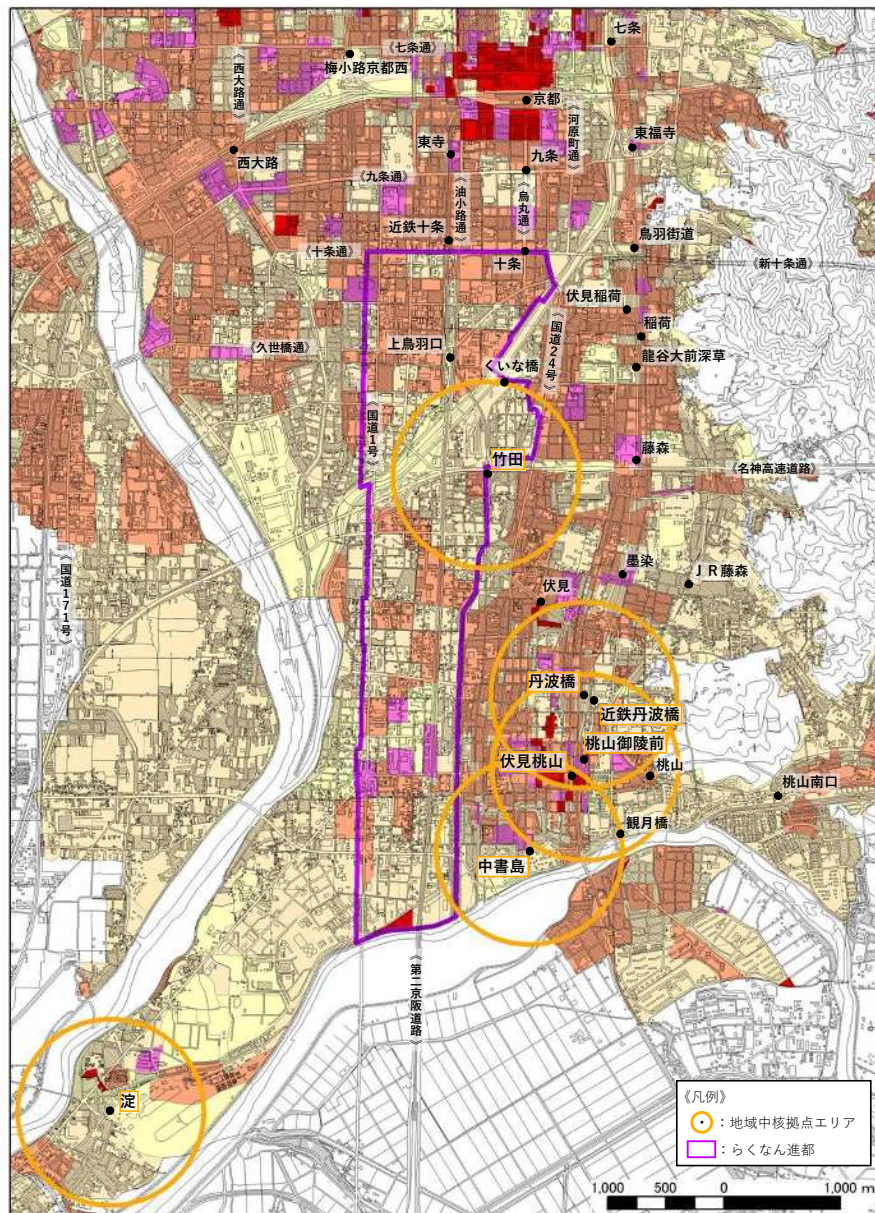


○京都駅など一部の駅周辺のエリアを除き、都市機能の集積の傾向は特段見られず、床面積が減少しているエリアも多い。
○特に竹田駅周辺においては、駅至近でありながら土地利用が低調なエリアが目立つ。

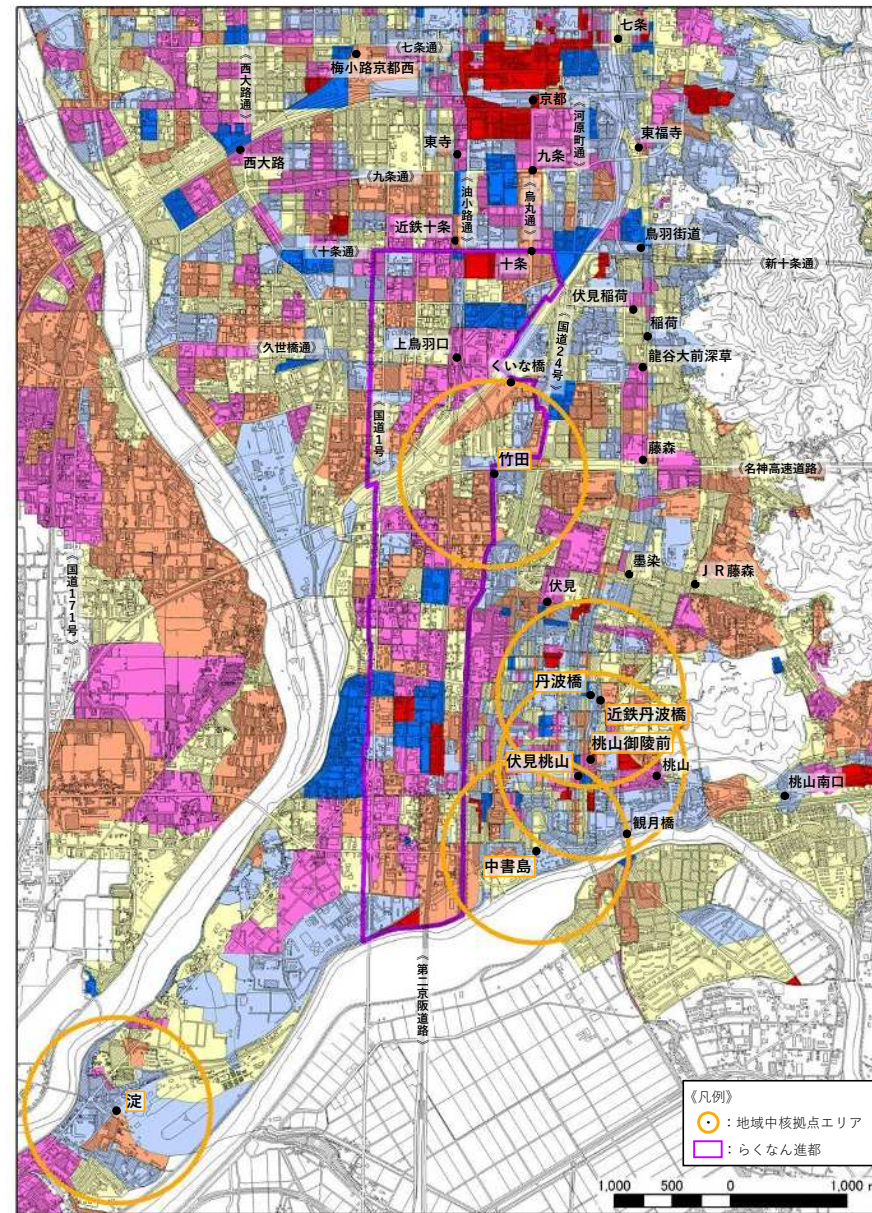
■全建物用途の床面積 (2021(R3))

: ~1,000㎡
 : 1,000~5,000㎡
 : 5,000~10,000㎡
 : 10,000~15,000㎡
 : 15,000㎡~



■全建物用途の床面積の増減 (2001(H13)~2021(R3))

: ~-500㎡
 : -500~-0㎡
 : 0~+500㎡
 : +500~+1,000㎡
 : +1,000~+5,000㎡
 : +5,000㎡~



※固定資産課税台帳情報を基に本市作成
※町単位における1ha当たりの床面積を凡例に沿って表示